

こころときめいて、くらしがやいて。

東邦銀行

お答えします!

〈東邦〉
なるほど
ガイド

東邦銀行 平成15年度中間期(9月)
ミニディスクロージャー誌

2003 TOHO
NARUHODO
GUIDE



こころときめいて、くらしがやいて。

東邦銀行

地域のリーディングバンクとして、
皆様の信頼にお応えします。



東邦銀行
取締役頭取

瀬谷 俊雄

皆さまには、日頃より東邦銀行をご利用、お引き立ていただきまして、誠にありがとうございます。

このたび、当行をより一層ご理解いただき、より身近にご利用いただくため、平成15年度中間決算内容をわかりやすく説明した「<東邦>なるほどガイド」を作成いたしましたので、どうぞご覧ください。

私ども東邦銀行は、引き続き健全経営に努めるとともに、これからも皆さまとともに歩む地域のリーディングバンクとして、より一層のサービス向上に努めてまいりますので、今後ともご愛顧賜りますようお願い申し上げます。

contents

- 2 東邦銀行の考え
- 3 東邦銀行の計画
- 5 安定経営で業績向上を実現
- 6 信頼される銀行として
- 7 不良債権への取組み
- 8 預金・貸出金の実績
- 9 地域貢献
- 12 トピックス
- 13 商品・サービス
- 14 アクセス

地域金融機関としての役割・使命

「地域を見つめ、地域とともに歩み、総合的な金融サービスをもって“ふくしま”の発展とお客さまの豊かな暮らしづくりのために力を尽します。」

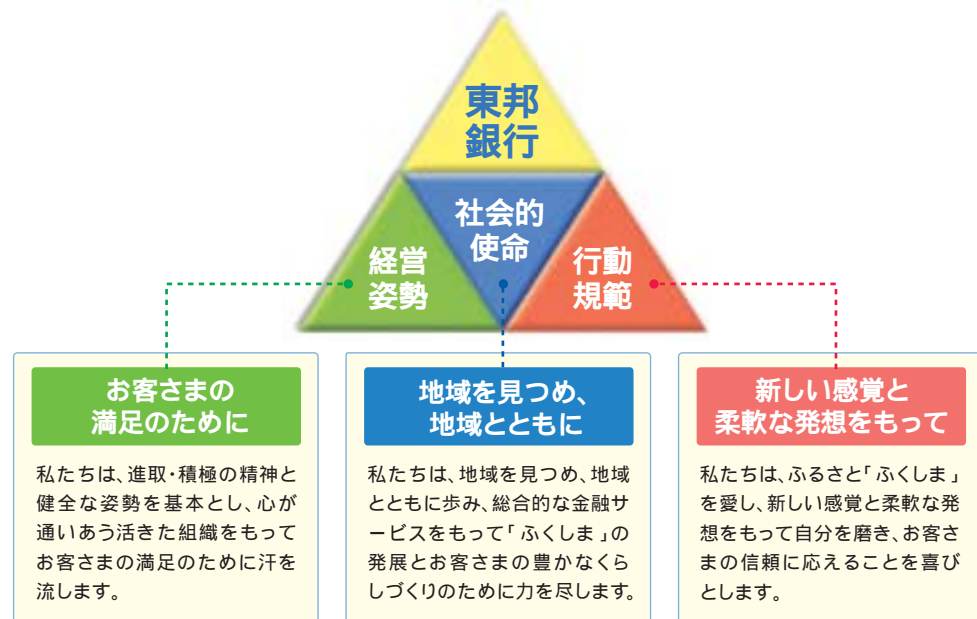
これは私どもが掲げている企業理念の一つ「社会的使命」であり、地域のお客さまとのリレーションシップ(信頼関係)を築き幅広い金融ニーズにお応えすることこそが、福島県のリーディングバンクとしての役割であり使命であると考えています。

お客さまの視点に立ち、最適かつ有益な情報をご提供する、さらには付加価値の高い金融サービスをご提供する。これらのことを通じて、東邦銀行は地域活性化、そして地域経済の発展に貢献してまいります。

東邦銀行の企業理念

当行では、平成3年11月の創立50周年時に掲げた以下の企業理念に基づいた経営を心がけております。

当行役職員一人一人がこの企業理念に沿って行動することを通じて、お客さま・地域からの信頼に応え、また、市場・株主の皆さまからも高く評価される「21世紀のベスト・リージョナルバンク(最も優れた地域金融機関)」をめざしてまいります。



東邦銀行の計画

中期経営計画

当行では平成15年4月より、計画期間を3年間とする中期経営計画「TOHO変革ビジョン2003」をスタートさせました。

当行は、役職員一丸となって本計画の確実な実行にとりくみ、多様化・高度化するお客さま・地域のニーズにお応えしていくとともに、市場・株主の皆さまからも高く評価される金融グループを目指してまいります。

中期経営計画の体系図

株主の皆さま お客さま 地域 市場

目指すべき銀行像(長期ビジョン)

21世紀のベスト・リージョナルバンク

～お客さま・地域からの信頼に応え、市場・株主の皆さまからも高く評価される銀行～

中期経営計画

名称：TOHO変革ビジョン2003

基本的考え方 **メインテーマ：高収益体質への自己変革**

地域経済発展への寄与という地域金融機関本来の使命を強く担い、お客さまからの厚い信託を勝ち得るため

お客さまが満足する金融サービスの提供を可能とし、株主の負託・市場からの期待にも応え得る安定収益を確保するため

当行は、役職員一人ひとりがこれまでの発想・慣習にとられない新たな発想・視点で業務に取り組み、本プログラムの実践に総力を結集し、自己変革を成し遂げます

経営目標

収益強化型ビジネスモデルの確立
資産内容の健全化促進
経営インフラの再構築
リレーションシップバンキングの機能強化

経営指標
(最終年度目標)

コア実質業務純益 150億円以上
自己資本比率 9.0%以上
不良債権比率 6.0%以下
OHR 70.0%以下

経営目標の実現に向けた自己変革モデルの実行

リスク管理体制・法令遵守態勢・内部統制機能の高度化

コーポレート・ガバナンスの強化

リレーションシップバンキングの機能強化計画

金融庁により示された「リレーションシップバンキングの機能強化に関するアクションプログラム」の趣旨を踏まえ、当行としての「リレーションシップバンキングの機能強化計画」を平成15年8月に策定しました。

「リレーションシップバンキングの機能強化」は当行が企業理念の一つとして掲げている「地域を見つめ、地域とともに」という「社会的使命」とまさしく軌を一にするものであります。

当行はこうした基本認識に立ち、福島県経済の現状、ならびに当行が有している経営資源等の分析を踏まえ、以下により「リレーションシップバンキング」の機能強化に取り組んでおります。

なお、本計画の実行を確実なものとするため計画策定とあわせて、左記中期経営計画「TOHO変革ビジョン2003」の経営目標の一つとして「リレーションシップバンキングの機能強化」を追加設定いたしました。

創業・新事業支援機能の強化に向け、「資金供給機能」、「相談・情報提供機能」を整備するとともに、案件発掘や支援活動に対応できる組織体制を整えます。

取引先支援機能の強化に向け、「情報提供機能」、「資金供給機能」、「ビジネスマッチング機能」を強化します。

早期事業再生に向けた積極的取組みとして、専担部署を中心とした全行あげての再生支援活動を展開します。

新しい中小企業金融への取組みの強化として、中小企業向け融資商品の充実、行内格付制度の精緻化等による審査業務の見直し、ならびに中小企業金融の高度化に取り組んでまいります。

融資契約に関するお客さまへの説明態勢の整備、ディスクロージャのさらなる拡充に向けた県内でのIR活動強化に努めてまいります。

(ご参考)「リレーションシップバンキング」とは

金融機関がお客さまとの間で親密な関係を長く維持することにより、お客さまに対する情報を蓄積しこの情報を基に貸出等の金融サービスの提供を行うビジネスモデル。

地域との深いリレーションのもと営業を行っている地域金融機関の経営形態そのものを「リレーションシップバンキング」と定義している。

安定経営で業績向上を実現

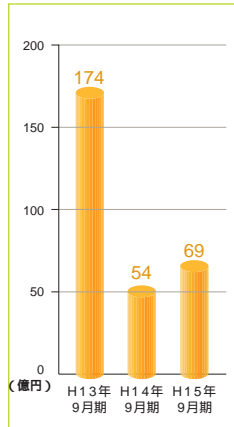
Q1 平成15年9月期の決算はどうでしたか？

A1 資産健全化のための諸施策実施により
 経常利益では減益となりましたが、
 中間純利益では増益となりました。

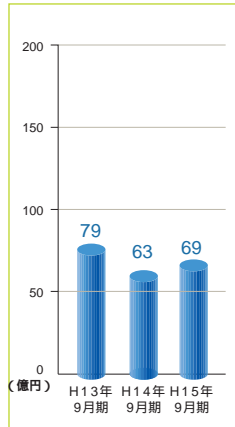
当中間期も、資金需要の低迷と長引く超低金利による厳しい収益環境下、運用力の強化、役員取引等収益の増強、経費の削減を図るなど利益の確保に努めました。一方、不良債権のオフバランス化を前倒して積極的に実施したほか、「資産査定、信用リスク管理の強化」を図るため、一定額以上の不動産担保物件に対し、厳格な基準による清算型の鑑定評価を新たに導入するなど、資産健全化のための諸施策を実施いたしました。この結果、不良債権処理額が前中間期比増加したことなどから、経常利益では減益となりましたが、厚生年金基金の代行部分の返上について認可を受け返上益を特別利益に計上したことなどから中間純利益では増益となりました。

損益の状況

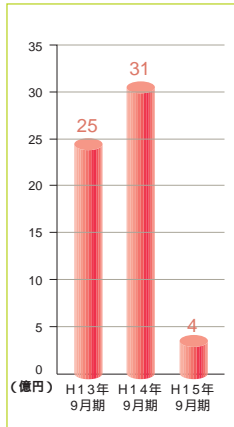
業務純益



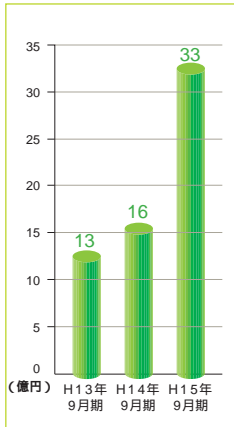
コア実質業務純益



経常利益



中間純利益



【業務純益・コア実質業務純益】 業務純益は、銀行本来の業務(資金の運用・調達、サービスの提供など)でどれだけ利益をあげたかをあらわす銀行固有の指標で一般企業の営業利益に相当します。
 コア実質業務純益は、業務純益から一般貸倒引当金繰入額と債券関係損益の影響額を除いた利益です。

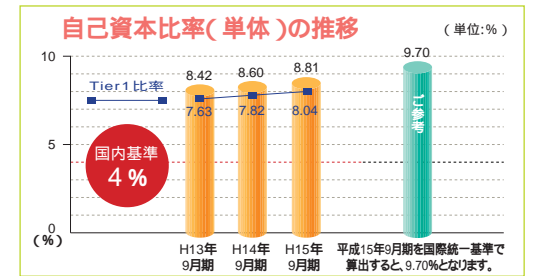
信頼される銀行として

Q2 銀行の健全性をあらわす自己資本比率はどうなっていますか？

A2 8.81%となり、国内基準の4%を大きく上回っています。

自己資本比率

銀行経営の健全性を測る上で重要な指標となっている自己資本比率は8.81%となり、国内基準の4%を大きく上回っています。また、Tier1比率(コアの自己資本比率)においても8.04%と高い水準を確保しています。



自己資本比率は小数点第3位以下を切り捨てて表示しています。

S&P社における長期格付け

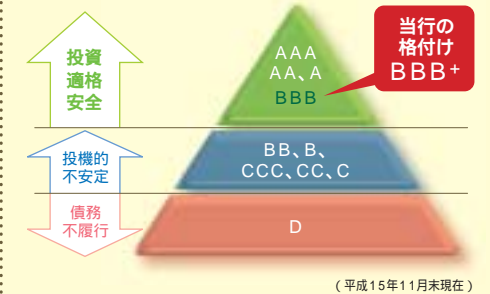
経営の健全性と安全性に関しては客観的な評価が大切です。当行は国際的な格付け機関であるスタンダード・プアーズ社の総合判断に基づいた格付けを取得し公表しています。今後も地域のみなさまの頼りになる銀行をめざしてお役に立つ商品・サービスを提供してまいります。

格付け

企業から依頼を受けた格付け機関が、客観的総合判断に基づき決定する信用度のこと。

S&P(スタンダード・プアーズ)社

ニューヨークに本社を置き、世界に約1,000人のアナリストを有する米国最大かつ世界に信頼されている格付け機関。日本での格付け実績は300社を超え、世界での実績は数千社にのぼります。



(平成15年11月末現在)

長期格付け **BBB+** 東邦銀行、東京三菱、三菱信託、群馬銀行、常陽銀行、千葉銀行など

短期格付け **A-2** 投資適格 安全



【自己資本比率】 自己資本比率は銀行の信用度、健全性を示す重要な指標です。海外で業務を営む銀行は8%以上(国際統一基準)、当行のように国内のみで業務を営む銀行は4%以上(国内基準)を維持することが義務づけられています。

【Tier1比率】 自己資本比率における自己資本は、資本金、資本剰余金、利益剰余金の基本的項目(Tier1)と、一般貸倒引当金などの補完的項目(Tier2)とに区分されます。Tier1比率は、補完的項目(Tier2)を除くコアの自己資本比率と言えます。

不良債権への取組み

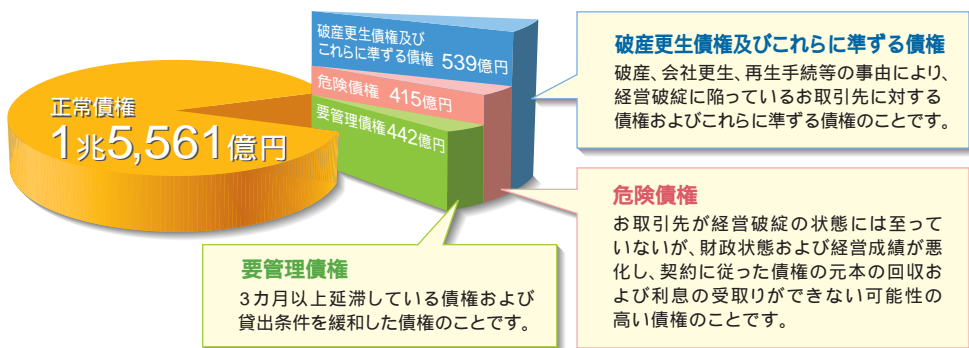
Q3 不良債権への対応は どうなっていますか？

A3 十分な引当を行い、健全性を確保しています。

金融機能再生緊急措置法に基づいた資産査定の結果、貸出金・支払承諾見返などの総与信のうち正常債権以外の債権は期中50億円減少し1,397億円(注)となっています。これらの債権は、必ずしもすべてが不良債権というわけではありませんが、当行では担保などにより保全を図るとともに、必要な部分については貸倒引当金により十分な引当を行い健全性を確保しています。

(注)なお、当行では部分直接償却を実施していませんが、実施した場合は1,078億円となります。

金融再生法開示債権



(単位:億円、%)

金融再生法開示債権

	債権額 (A)	保全額 (B)	担保保証等		保全率 (B/A)
			担保保証等	貸倒引当金	
破産更生債権及びこれらに準ずる債権	539	539	180	359	100.00
危険債権	415	343	208	134	82.53
要管理債権	442	233	148	85	52.88
合計	1,397	1,116	537	579	79.89



【金融再生法開示債権】金融再生法(正式名称「金融機能の再生のための緊急措置に関する法律」)に基づく基準により、平成11年度中間期から貸出金等の分類を公表しています。対象債権は貸出金、外国為替、未収利息、仮払金、支払承諾見返です。

【部分直接償却】「破産更生債権およびこれらに準ずる債権」の担保・保証付債権について、債権額から担保の評価額および保証等により回収が可能と認められる額を差し引いた残額を、貸倒償却として債権額から直接減額することです。

預金・貸出金の実績

Q4 預金と貸出金の状況は どうでしたか？

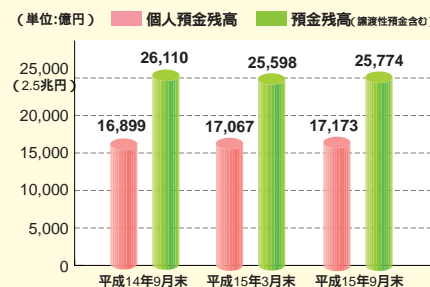
A4 預金は2兆5,774億円、貸出金は1兆6,811億円となりました。

個人預金は、お客さまの高い信頼をいただき、105億円増加し1兆7,173億円となり、預金全体では175億円増加の2兆5,774億円となりました。

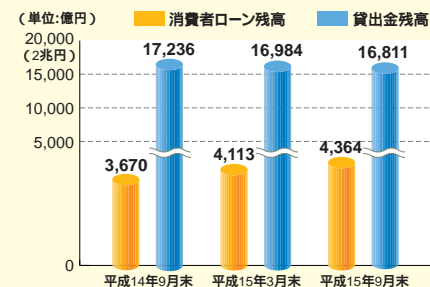
一方、多様化するお客さまの資金運用ニーズに積極的にお応えしました結果、国債および投資信託を対象とした預り資産残高は、241億円増加し1,359億円となりました。

貸出金は、消費者ローンが住宅ローンを中心とした積極的な推進により251億円増加し4,364億円となりましたが、長引く景気低迷により企業の資金需要が低調に推移したことなどから、貸出金全体では173億円減少の1兆6,811億円となりました。(平成15年3月末対比)

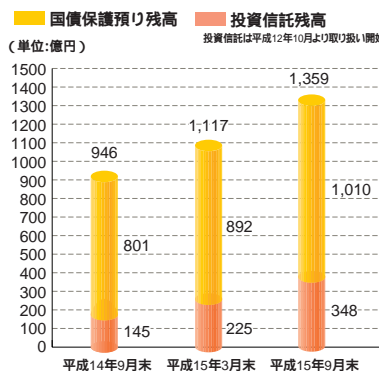
預金・個人預金残高の推移



貸出金・消費者ローン残高の推移



国債・投資信託



ペイオフについて

「ペイオフ」とは預金保険制度の中で定められた預金者保護策の一つで、金融機関が万一破綻した場合に、預金保険機構が元本1,000万円とその利息(1預金者1金融機関あたり)を限度に保険金として支払う制度です。平成14年12月制度が改正され、平成17年3月末まで当座・普通・別段預金は全額保護されます。

		平成14年4月～平成17年3月	平成17年4月～
預金保険の対象商品	当座預金 普通預金 別段預金	全額保護	利息がつかない等の条件を満たす預金(注)は全額保護
	定期預金 定期積金 ビック・フワイド等		合算して元本1,000万円までとその利息等を保護 (1,000万円を超える部分は破綻金融機関の財産の状況に応じて支払われる)
商対象品外	外貨預金 譲渡性預金 ヒット等	保険対象外 (破綻金融機関の財産の状況に応じて支払われる)	

[注]決済用預金といします。「無利息」「要求払い」「決済サービスを提供できる」という3つの条件を満たすもの。

地域貢献

Q5 地域貢献および地域貢献に関する情報開示についての基本的な考え方はどのようになっていますか。

A5 当行は企業理念の一つ「社会的使命」の中で、地域のお客さまとのリレーションシップ(信頼関係)を築き幅広い金融ニーズにお応えすることを通じ、地域の活性化や地域経済の発展に貢献していくことを、当行の役割かつ使命として明確にしております。

本業である銀行業務を通じて地域経済・社会の発展に貢献していくことが、当行に求められている地域貢献の本来のあり方であると考えておりますが、それと同時に、一市民として芸術・文化・スポーツ等の振興支援や、様々なボランティア活動等にもでき得る限り積極的に取り組んでいく所存でございます。

当行が地域とともに発展していく上で、地域への貢献を適切に行い、その内容を地域のお客さまに十分ご理解いただくことは、非常に大切な経営課題であると考えております。

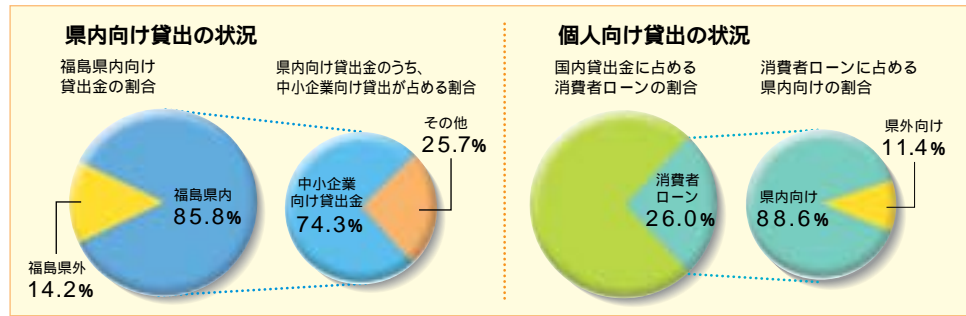
当行では、「リレーションシップバンクの機能強化計画」において、地域貢献に関しては従来以上に、行内外に対して積極的な情報開示を行う方針としており、地域のお客さまに理解を深めていただくことを常に念頭に置き、より一層、充実した情報開示を行ってまいります。

企業理念 **【社会的使命】地域を見つめ、地域とともに**
 私たちは、地域を見つめ、地域とともに歩み、総合的な金融サービスをもって「ふくしま」の発展とお客さまの豊かなくらしづくりのために力を尽くします。

Q6 貸出を通じた地域貢献はどのようになっていますか。

A6 当行は「フォア・ザ・ふくしま」を基本に地域のお客さまに密着した営業活動を展開しており、平成15年9月末時点の貸出金のうち85.8%を県内のお客さまにご利用いただいております。なお、福島県内向け貸出のうち、先数の99.9%、残高の74.3%は中小企業等向け貸出金となっております。

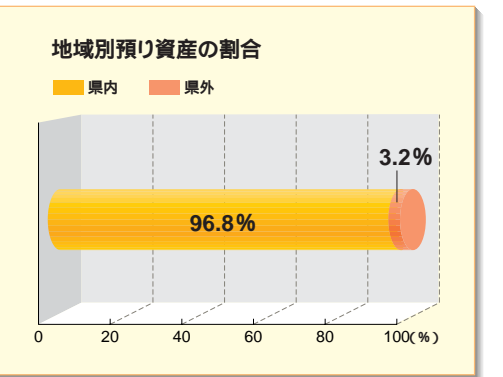
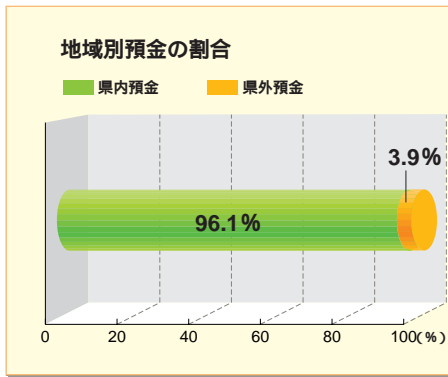
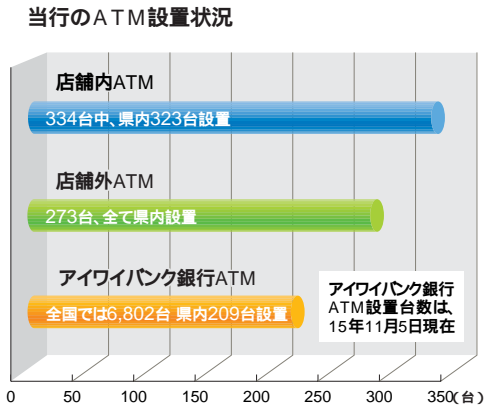
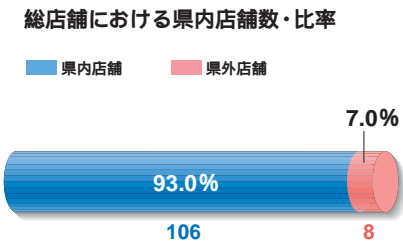
また、個人向け貸出については、残高のうち88.6%を県内のお客さまにご利用いただいております。



Q7 お客さまへの利便性提供の状況はどのようになっていますか。

A7 当行は、総店舗数114店舗のうち106店舗、ならびに約600台のATMを県内に設置するとともに、平成15年10月からはアイワイバンク銀行と提携し24時間365日利用可能なATMサービスを開始するなど利便性の向上を図っております。

預金および預り資産(公共債、投資信託、保険商品等)については、平成15年9月末時点でそれぞれ96%超を県内のお客さまにご利用いただいているほか、テレフォンバンキングやモバイルバンキング、メールオーダーサービスの取扱いや資産運用・年金のサポートデスクとしてのお金運用プラザの設置、さらには各種決済・資産形成サービスや相談会、セミナーの開催を通じ地域のお客さまへの利便性提供に取り組んでおります。



地域貢献

Q8 地域経済活性化への取組み状況はどのようになっていますか。

A8 当行では、地元企業に対する経営サポートとして以下の取組みを行っております。

- A. 外部コンサルタントを活用した経営相談セミナーの開催
- B. 海外進出企業への支援(貿易実務講座の開催)
- C. 関連シンクタンク(財団法人 福島経済研究所)
- D. 各種勉強会等への講師派遣および取引先企業向け社員研修会の開催
- E. 融資部企業経営支援チームによる取引先企業の業績向上支援
- F. 地元企業の再生
- G. 企業育成への取組み

Q9 地域への各種支援活動の状況はどのようになっていますか。

A9 当行は、地域への各種支援活動として(財)東邦銀行文化財団等を通じ、県内の文化・スポーツ活動を幅広く支援しております。

またこれらの他、「ふくしま駅伝」への協賛、「公益信託うつくしま基金」の助成先募集や「小さな親切運動」の実施等、業務以外の面においても様々な活動に取組んでおり、活力ある心豊かな地域づくりを底辺から支えています。



(財)東邦銀行文化財団
原郷のこけし群西田記念館



「ふくしま駅伝」ゴール風景

トピックス

おかげさまで新勘定系システム PROBANK は、本年9月16日より稼働いたしました。

新システムは、平成12年2月より当行と富士通が3年半をかけて構築し、本年9月16日スタートいたしました。

最新の技術を駆使した、次世代の地銀向け共同利用型勘定系システムとなっており、24時間365日連続運転をはじめとし、地方銀行の勘定系システムとして必要機能を装備しています。

今後は、さらにお客さまのご要望に迅速かつ的確な対応をめざすとともに、システム全般にかかるコストの大幅な削減を図ってまいります。



PROBANK稼働セレモニー

10月20日より、アイワイバンク銀行のATMで24時間365日、当行カードがご利用可能となりました。

当行は10月20日からアイワイバンク銀行と提携し、セブンイレブン等に設置されましたアイワイバンク銀行のATMで24時間365日、当行カードがご利用可能となりました。

また、郵便局との相互乗り入れによる利用も10月20日からスタートいたしました。

地域の皆さまのゆたかな暮らしづくりのため、今後ともよりよいサービスを提供してまいります。



アイワイバンク銀行安齋社長と瀬谷頭取

商品・サービス

商品・サービスの充実に取り組んでいます

資産運用のために

投資信託

お客様の資産運用ニーズにお応えできるよう、多彩なファンドをご用意しております。



ゆとりあるセカンドライフのために

個人年金保険

将来の生活のために、計画的な資産形成のお手伝いをいたします。



いろんなローンを一本化でラクラク返済!!

東邦 おとりまとめローン

ローンのお借換えはもちろん、物品購入や旅行、お車の購入など、さまざまな費用にご利用いただけます。

現在ご利用中のローン・クレジットなどのお借換え

+

物品購入・旅行・マイカー購入など

▼

最高500万円までOK!

事業の資金作りをしっかりサポート!!

TOHO元気ダッシュII

最大5,000万円()まで、原則無担保、第三者保証人不要で、迅速にお応えします。

5,000万円のご融資の場合、協会付2,500万円、当行独自2,500万円の2本建てのご融資となります。

必要な事業資金をスピーディーに!!

東邦ビジネスローン 速活力

スピード審査で
お申込み受付の最短翌営業日にご回答

最高500万円まで
ゆとりの5年返済

担保も第三者保証人も不要

FAXでの仮申込書受付開始
フリーダイヤル **0120-104-919**

お客様の商売繁盛のお手伝い!!

東邦 商売繁盛おとりまとめローン

当行のお借入れや他の金融機関のお借入れなど複数のお借入れに、新たな事業資金も加えておとりまとめいたします。

ご融資期間の延長など、ご返済計画の見直しのご相談も承ります。

信用保証協会の「資金繰り円滑化借換保証制度」とあわせて、ご利用いただけます。

アクセス

ローンプラザ・ローンセンター

土曜日・日曜日も営業しています

取り扱い業務

住宅資金のご相談
住宅ローン・住宅金融公庫の申込受付
各種ローンのご相談・申込受付
オートローン
教育ローン
おとりまとめローン
お買物ローン
プライダルローン
メモリアルローン
カードローン など

お気軽にご相談ください

0120-608104

お電話は各店の営業時間内に承ります。

平日15:00以降と土・日曜日は相談業務のみとなります。
祝日および12月31日～1月3日、5月3日～5月5日は休業とさせていただきます。
ただし、祝日と土・日曜日が重なった日もご利用いただけます。



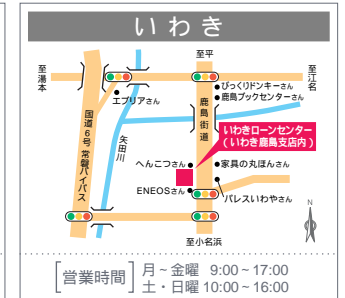
【営業時間】月～金曜 10:00～18:00
土・日曜 10:00～16:00



【営業時間】月～金曜 9:00～17:00
土・日曜 10:00～16:00



【営業時間】月～金曜 10:00～18:00
土・日曜 10:00～16:00



【営業時間】月～金曜 9:00～17:00
土・日曜 10:00～16:00

東邦便利コーナー 来店いただくことなくご利用できます

お電話でアクセス

ご利用内容	アクセス	ご利用時間
資料のご請求、商品・サービスのご照会	ハローサービスセンター 0120-14-8656	月～金() 9:00～17:00
投資信託・積立投信のご照会	投資信託専用ダイヤル 0120-104150	月～金() 9:00～17:00
年金保険等生命保険のご照会	保険フリーダイヤル 0120-104-906	月～金() 9:00～17:00
クレジットカードローン「TOHOモビット」	24時間 クイックローン 0120-24-919-6	24時間(365日受付)

祝日、12月31日～1月3日、5月3日～5月5日を除きます。

FAXでアクセス

ご利用内容	アクセス	ご利用時間
商品・サービスのご照会 オートローン・教育ローン等の仮申込書のご請求	FAX情報サービス 162-#287-024-543-0451-01-#	24時間(365日受付)
ローンのお申込み(仮申込み)	ローン事前予約サービス FAX 024-543-1822	24時間(365日受付)

ローンの仮申込書は各ATMコーナーに備え付けてあります。(FAX、インターネットからも仮申込書は出力できます。)

ホームページアドレス

<http://www.tohobank.co.jp/>